

GIGA スクール端末の適切な使用に向けたユーザー調査結果について

東京海上日動火災保険株式会社（取締役社長：城田 宏明、以下「当社」）は、GIGA スクール構想の持続的・安定的な運営に向けて、学習用端末（以下「GIGA スクール端末」）を使用する児童・生徒の保護者 20,000 人を対象に、GIGA スクール端末の使用実態に関する調査を実施いたしましたので、お知らせします。

1. 調査目的・背景

2019年に文部科学省が打ち出したGIGAスクール構想により、教育の質の向上を目的とし、子供たち一人ひとりにパソコンやタブレットの端末の配布と、高速大容量の通信ネットワーク等の教育ICT環境の整備が進められています。

一方で、GIGAスクール端末の普及に伴い、使用実態や故障・破損時の対応について自治体や学校によってバラつきが生じていること、多額の修理代や事務ロードが自治体や学校の大きな負担となっていることなど、運営フェーズにおける課題が生じています。

当社は、GIGAスクール構想開始以来、教育用端末に付帯する保険や、販売会社が提供する保証に対して保険引受けを行うこと等を通じ、GIGAスクール端末普及の支援を行ってまいりましたが、当初の想定を超えた故障・破損が生じていることから、GIGAスクール構想の持続的・安定的な運営に向け、国内で初めて（※）、GIGAスクール端末ユーザーの保護者約20,000人を対象に、端末の使用実態等に関する調査を実施いたしました。

GIGAスクール端末の使用実態や課題を把握し、適切な使用を促すことで安定的な制度運営を支援してまいります。

（※）当社調べ 2024年3月時点

2. 調査概要

- 調査対象 : GIGAスクール端末を使用している児童・生徒の保護者 20,000人
- 調査方法 : インターネットを用いた対象者へのアンケート
- 調査時期 : 2023年10月17日～10月23日
- 調査項目 : GIGAスクール端末の使用実態や故障・破損の発生状況・実態

3. GIGA スクール端末の使用実態に関する調査結果（別紙参照）

（1）約 80%が端末を自宅に持ち帰り。学校からの管理指導には温度差も【図 1】

- 対象者 20,000 人のうち、約 68%が学校と自宅での持ち運び（学校と自宅両方で GIGA スクール端末を使用）があると回答しています。また、使用頻度は「平日のみ使用」が約 57%、「休日も使用する」との回答が約 43%でした。私立学校は国公立に比べて、GIGA スクール端末を自費購入させている割合が高いことから、休日含めての使用日数が増える傾向があります。
- 端末の使用・管理について、「学校から適切な指導がある」との回答は約 60%ある一方、「具体的な指導はあるが守れていない」「具体的な指導がない」「分からない」など、指導が十分に行き届いていないと感じている人も約 40%存在しています。
- 破損・故障場所として最も多いのは学校敷地内ですが、約 43%は学校敷地外（主に自宅）で発生しており、学年が上がるにつれて学校外への持ち運び頻度も増えることから、故障・破損ともに増加する傾向があります。

（2）故障・破損率は持ち運びにより約 2 倍、指導の有無により約 3 倍にも上昇【図 2】

- 「学校と自宅の持ち運びがある場合」の故障・破損率は、「学校のみで使用している場合」と比較して、自然故障は約 2 倍、破損は約 4 倍となっています。また、「学校からの指導が行き届いていない場合」には、「具体的な指導がある場合」と比較して、自然故障・破損の率ともに高い傾向にあり、特に破損については、約 3 倍の差が出ています。持ち運び時の保護対策（ケースやカバーの活用など）や、学校外での使用・保管時の端末の扱い方など、実効性のある指導が十分ではない場合、故障・破損率の悪化に影響を与えていると考えられます。

（3）端末型式によっても破損・故障率に差異あり【図 3】

- 教育用端末は、自治体や学校によって使用する型式は様々ですが、端末型式によって故障・破損率が異なっています。具体的には、「タブレット端末」、「コンバーチブル端末（ディスプレイを 360 度回転させることのできるタブレット端末）」、「デタッチャブル端末（ディスプレイ部分とキーボード部分が着脱可能で、分離して使用できる端末）」、「ラップトップ端末」と 4 つの型式に分けた場合、デタッチャブル端末やコンバーチブル端末の故障・破損率が高く、タブレット端末やラップトップ端末の方が壊れにくい傾向にあります。自治体・学校における端末調達に際しては、耐久性の観点でもその特徴を十分に踏まえた上で、調達する端末を決定することが望ましいと考えられます。

（4）破損原因の 4 分の 1 は、「落下」によるもの【図 4】

- 破損の要因としては「落下」が最も多く全体の約 26%を占めており、うち約 57%が机上からの落下となっています。次いで、「ぶつけた」「圧迫した」等の理由があげられ、「ぶつけた」と回答した者のうち、約 54%は持ち運び時に発生をしています。学校向けには、机上からの落下対策として防止柵等も販売されているものの、整備が浸透しきっていないと難しいことから、保護ケース等と併せた事故削減対策が必要と考えられます。

(5) 自己負担ルールについては、自治体・学校による差異あり【図5】

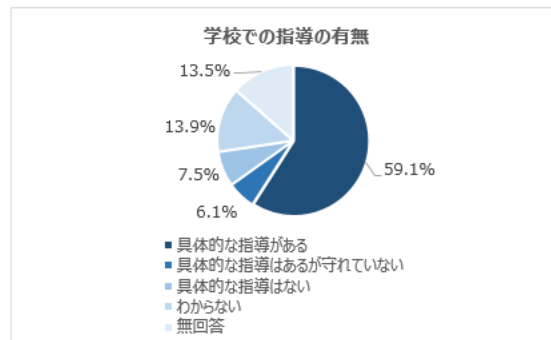
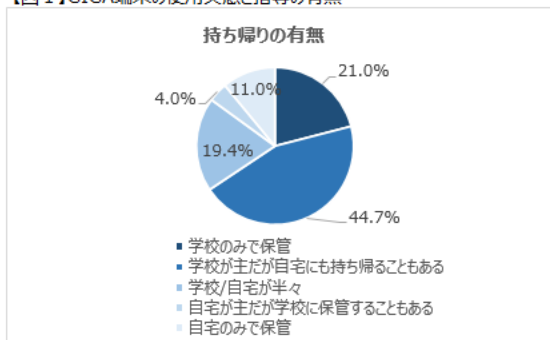
- 故障・破損に際し、修理費用の一部または全部を使用者側で自己負担した方の割合は19%でした。また、自己負担がなかった方についても、約55%が1,000円以上の修理費用の自己負担を許容すると回答しています。既に自治体によっては、事故の原因・態様により、修理費用の一部または全部を学校負担（保証・保険含む）ではなく使用者負担とする例があることから、端末使用と破損・故障時の負担ルールを予め定め、自治体・学校の負担額を抑制すると同時に、児童・生徒の適切な端末使用を促すルールや運用整備が重要と考えられます。

4. 今後の取り組み

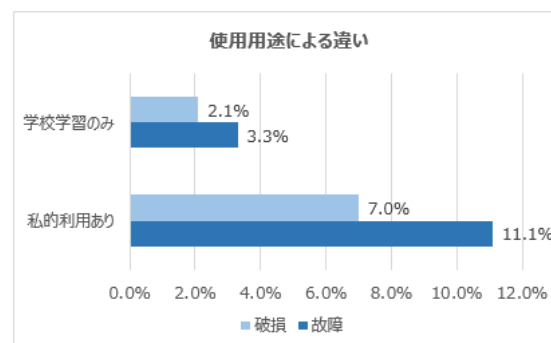
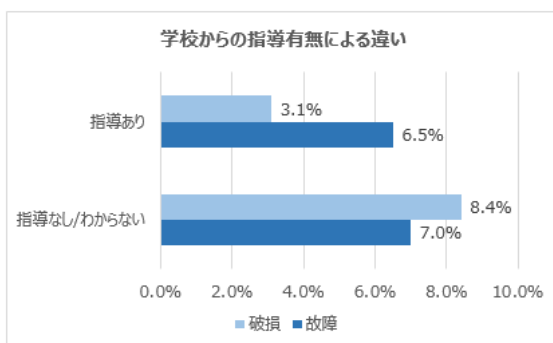
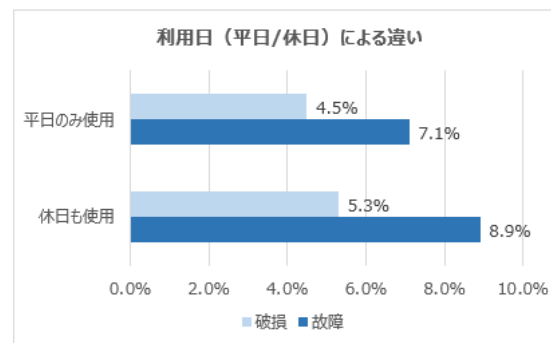
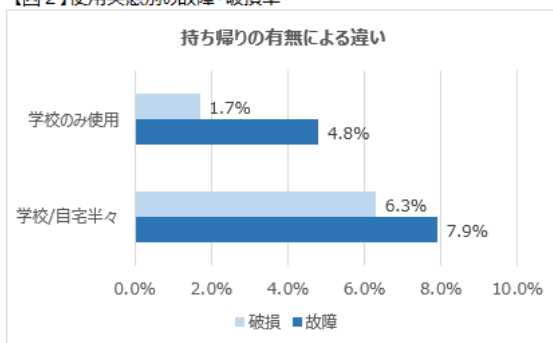
今後、2025年以降には大規模な端末の入れ替えが予定されており、「壊さない」適切な使用や管理方法の働きかけが重要と考えられています。当社は、今回の調査を通じて明らかになった使用や管理の実態をもとに事故の傾向や対策について、自治体や保証の提供を行う販売会社等へ情報提供を行い、GIGAスクール端末の適切な使用を促進するための働きかけを行うとともに、万一の際にも安心してGIGAスクール端末の使用を継続できるよう、保険のご提供や保証の構築支援を通じて、引き続きGIGAスクール構想の実現と安定的な制度運営を支援してまいります。

以上

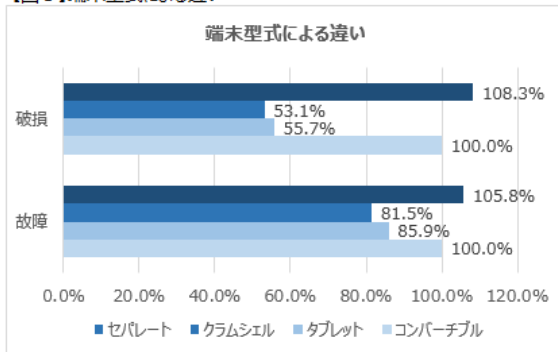
【図1】GIGA端末の使用実態と指導の有無



【図2】使用実態別の故障・破損率

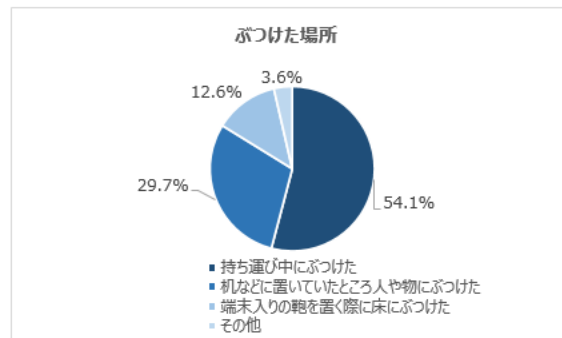
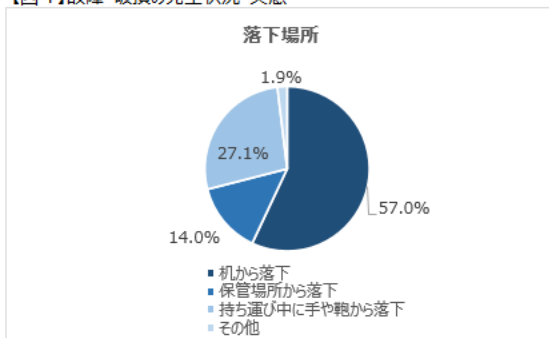


【図3】端末型式による違い



※コンバーチブルの故障・破損率を100%とした場合

【図4】故障・破損の発生状況・実態



【図5】自己負担について

